

平成27年度第1回射水市中小企業振興等協議会議事録

1 開催日時 平成27年7月16日(木) 午後2時30分～午後4時20分

2 開催場所 新湊消防署3階大ホール

3 出席者

(1) 委員

小柳津委員長、八嶋副委員長、石黒委員、北野委員、笹谷委員、高木委員、山岸委員、山田委員、若林委員

(2) 当局

産業経済部長、商工企業立地課長、政策推進課長、射水商工会議所事務局長、射水市商工会事務局長、商工企業立地課課員2名、政策推進課課員1名

4 傍聴者等 なし

5 説明事項

(1) 平成26年度射水市企業状況調査結果について

(2) 地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金事業について

(3) 射水市まち・ひと・しごと創生総合戦略について

6 意見口述(概要)

(1) 平成26年度射水市企業状況調査結果について

【委員】 企業状況調査結果の結果には載っていないことだが、射水市は創業支援事業計画の認定を受けていたはずだが、平成26年度の市内の創業支援者数は何人だったか。

【事務局】 手元に資料がないため、支援者数の即答はできないが、創業者支援融資の利用件数は8件だった。

(2) 地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金事業について

【委員】 富山県新世紀産業機構でも販路拡大支援補助は行っているが、射水市は補助率2/3と高い。また、当機構では審査で落とした企業も結構いる。射水市の利用実績を教えてください。

【事務局】 今日現在の利用実績は5件で1,073千円である。随時募集している。機構にも市内企業が来ているのであれば、ぜひ案内をしてほしい。

【委員】 市内に本社がなくてもいいのか。

【事務局】 事業所があれば構わない。

【委員長】 学生企業訪問支援事業の選定の5社はいずれも大手企業である。しかし、実際に人手不足で困っているのは中小企業であり、この点はどう考えるか。

【事務局】 この事業は今年度から始めた事業であり、今回は高卒の就職率が高いところを選んだ。学生さんにもたくさん来てほしいという思いもあり、ハローワークや学校の先生とも話した上で、参加をお願いした。

【委員長】 例えば、商工会議所・商工会を通じて企業を募集して、それで集まらなければ市が探すのであればまだわかるが、なぜ最初からこの5社だったのか。学生に情報があまり伝わらない会社にこそ、この事業は生きてくると思う。やり方はいろいろあったと思う。

【事務局】 時間的な制約や、高校生が多く集まるかどうかの不安もあったため今回はこの5社にお願いした。

(3) 射水市まち・ひと・しごと創生総合戦略について

【委員】 射水市は地方創生が遅れている。氷見市は専用の課を創設し、南砺市はグループプロジェクトを立ち上げたが、射水市は今後どうするのか。

【事務局】 庁内では部長級の本部会議、課長級の幹事会の2つがあり、これを中心に総合戦略作成を推進していく。他、このような場での意見の傾聴、金融機関との会議及び素案ができた段階で外部委員会を設置し、その意見も聴きながら推進していきたい。

【委員】 国への提出は10月が目標か。

【事務局】 国は10月に公表できる段階であれば交付金の対象にするとあるが、交付金目当てで作るわけではない。一つの目安を10月と考え、市民に公表できるようにしたい。

【委員】 人口減はある程度決まっている。射水市でも高齢者の割合が多いように思うが、それを総合戦略に含むことも一つの方法であると思う。意見として、射水市は高齢者の支援に注力など、特徴あるまちにした方がいいのではないか。

【事務局】 高齢者もちろん考えなければならないが、国が注力しているのはあくまでも人口減少の克服である。人口減少率だけで考えると2060年には8,000万人になるとのことだが、国では2060年には人口1億人にする目標を立てている。それを達成するためには各地方が施策を行わないといけない。子供を産み育てやすい環境をつくるのが大事と考える。

【委員】 人口減少対策は射水市単独ではできないはず。

【事務局】 あくまでも自然数を増やすことが第一。子供の数を増やすことが大きな目標と考える。

【委員】 国の施策の中で射水市だけで子供を大きく増やすのは現実的に無理ではないか。

【事務局】 子供を増やすことだけが目標ではない。あくまでも目標のひとつである。

【委員】 県立大学でも学生数増加を知事から言われている。学科も増やし、県内就職率を上げようと思っているが、若者は一時的に増えても継続して増加はしない。箱を作るだけでは、どうにもならない。上からの数字は外から持ってくるだけのもの。基礎の体制を作らないといけない。

【委員長】 今回この協議会求められているのは主に「しごと」の部分。それについての意見があるか。

【委員長】 魅力ある市にしたいというが、転入にはそれぞれ理由がある。個人の場合は概ね仕事の都合だと思うが、探らないとわからないところもある。声を聞くことが大事である。同じように企業も何が魅力的でここにいて、何を市に求めているのか。これをアンケートで聞くならば、今後何をしていくかを市役所だけで考えるのは無理がある。文句や希望を言っても実際にはどうしたらいいかわからない企業がほとんどだと思う。ただ、皆で集まって考えることで何かが生まれるかもしれない。その意味で産学官金が集まった振興会議を定期的に行ってほしい。市役所はその時になにか一緒にできることがないかを聞くことが大事だと思う。聞きっぱなし、計画立てっぱなしというのはよくない。それは「協働」の言葉にもそぐわない。

【事務局】 市の魅力という点に関しては、「子育てしやすいまち」というキャッチフレーズで推してきたところはある。県内他市町村に先駆けて事業を行ってきた。富山市・高岡市でも良かったが、この事業を行ってきたから射水市に転入したということもあると思う。産業面から見ても県立大学があり、産学連携できる相談窓口があることもひとつの強みではないかと思う。

企業立地の立場からすると、富山県は災害に強く企業のリスクヘッジになる。富山県民の勤勉性や北陸新幹線開業も魅力だと思う。北陸地方は日本で一番電気代が安いことも要因にあると思う。また、中小企業振興等協議会は年2回を予定しているが、回数を増やすこともある。さらに、商工協議会が行っている産学官金連携推進企業の研修会も3か月に1回を行うとのことなので、各界の意見を聴くことができればと思う。

【委員長】 個人的には、この協議会と振興会議は別物だと思っている。

【委員】 結婚、出産、子育てが安心してできる環境を整えるとあるが、大企業が旦那なら退職後専業主婦でもいいが、中小企業であれば奥さんも短時間勤務で働かなければならない。また、未満児で病児保育をしてくれる施設が射水市にどれだけあるか。子供が病気になり、保育園の来園を断られれば、面倒を見てくれる人がいない。そうになると、仕事を休むことになってしまうが、短期間勤務で休みばかりとっては、企業側からすると当てにならないのではないか。また実際にあった話では土日出勤労働者に対して、保育園側が土日に子供の面倒をみるのを嫌がっている。その点を改善しない限り、環境整備はできないと思う。

【事務局】 市だけで解決する話ではない。ワークライフバランスに関することだと思うが、女性の就労促進と同時に男性の育児休暇の促進することが必要である。フランスではそれを国策で行うことで、その取得者が増えた。市だけではなく、企業の協力も必要と考える。

【委員】 それはあまりにも夢のような話で、極論、企業に強制させるくらいしなければできないのではないか。

【委員長】 委員のおっしゃったことは総合計画の基本目標の書き方として市としての強い決意が感じられないということだと思う。

【委員】 やるべきことが多すぎてどれを優先するべきか考える必要がある。市が中心となって皆が頭をならべて、具体的に落とし込んでいくことが大事だ。育児を先にやるのか、高齢者を先にやるのか。

【委員長】 基本的目標の骨組みについては何か意見はないか。

【委員】 やはり射水市の特徴が欲しい。安全性を訴えるのか、新幹線の特徴とするのか。やり方はいろいろある。

【事務局】 様々な問題があると思うが、それを解決するために企業にはどういったことをすればいいか、意見が欲しい。

【委員】 冒頭で創業の話があったが、射水市が県内でも早い段階で創業支援事業計画の認定を受けたこともあるし、創業のことを基本目標に取り込むのはどうか。

【委員長】 一般的な言葉ではなく、射水市なりの具体的な文言が入っていた方がいい。しかし、この場でそれをすぐに述べるのは少し無理がある。てにをはみたいなことを言ってもきりがない。

【委員】 以前から言っているが、振興会議に関する基本条例をぜひ作ってほしい。振興会議でいろいろな意見、膝詰めの話をしてほしい。このままではうわべだけの話で、結局企業が自分たち次第かと諦めることになりかねない。もう少し踏み込んだ話をしてほしい。また、射水市なりの目指すべきモデルをもっているか。頭で考えるだけではなくて、皆で行動して、いいところを参考にすることが重要である。

【委員長】 今回は基本的方針を決めるということなので、今委員の皆さんがおっしゃったような考え方を含めて、後日意見をメールかFAXで事務局に送ってほしい。

以上 閉会